



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第35号
2006.11.1
高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつかっています。

もくじ

お知らせ

- 冬季閉館について
- 「越冬する樹木の姿」開催中止

活動報告

- サツキマスの産卵
- キノコの観察会

観察会案内

- 冬鳥の観察
- 千町原の草刈り

お知らせ

冬季閉館について

高原の自然館は11月26日より冬季閉館となります。今シーズンもありがとうございました。来年は4月25日の開館です。

「越冬する樹木の姿」開催中止について

観察会「越冬する樹木の姿」を11月11日に開催する予定でしたが、講師の都合のため中止となりました。参加を予定していた方にはご迷惑をおかけしますが、よろしくご了解ください。

活動報告

サツキマスの産卵

開催日時：2006年10月9日（月）9:30

講師：内藤順一

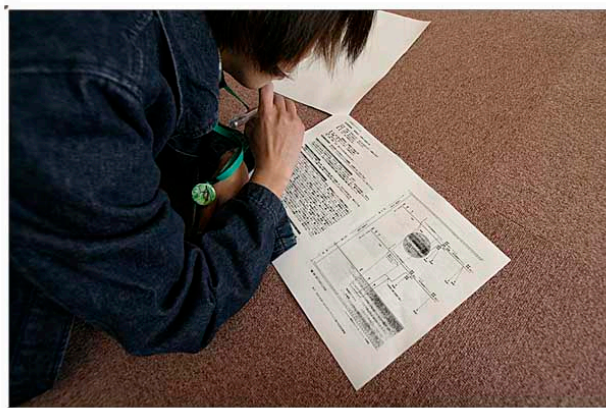
秋の気配が濃くなってきた八幡に、27人の参加者が集まりました。それに加え、今回はRCCテレビも取材に来て頂きました。

はじめに、八幡高原センターのホールで、ビデオやスライドを使いながらの講義を受けました。サツキマスが卵から生まれて、いつマスになり、どのように遡上してくるのか、あるいは降海型と降湖型とアマゴとの違いなど、資料と映像で分かりやすく聞くことができました。さらに、今回はカワシンジュガイについて新しく分かってきたことも教えていただき、非常に内容の濃い講義となりました。その後、実際に川に行ってみると、産卵床やサツキマスの群泳も見られました。また、産卵を終えて死んでいるサツキマスも見つかりました。お昼には観察を終え、高原センターで解散しましたが、帰路でツキノワグマを目撃した人もいたようで、充実した観察会になりました。

高原センターのホールは少し寒かったですね。防寒の案内をすれば良かったと、後で反省しました。参加されたみなさんが、風邪を引いていなければよいのですが...[し]



はじめに、八幡高原センターで生態や分類の話聞いた。



サツキマス（アマゴ）の生活史について、資料を見ながら話を聞いた。



今回はテレビの取材をうけた。



アマゴに寄生する希少種、カワシンジュガイについてもお話いただいた。



サツキマスの雌。この個体はとて
きれいだっただ。



八幡高原センターに戻って、全体の
まとめ。自然再生事業が進んでいる
こともあり、たくさんの質問が出た。



サツキマスの群泳。

みなさんの印象に残った物

「産卵を終え死んでしまったサツキマスの姿。(3)」「サツキマスの産卵所」「生命の循環ということを感じました。カワシンジュガイの生態を学んで。(2)」「サツキマスとカワシンジュガイの関係が分かった。」「サツキマスを広島で初めて見たことですね。あとクマ！！目撃。」「アマゴの雄の随伴。」「サツキマスがゆったり泳いでいるところ。(5)」

参加したみなさんの感想（抜粋）

「堰堤で遡上が止められていたのは方法を。」「先生のお話の中にもありましたが人間が少し引く。自然に少し遠慮した生活を考えてゆかないと将来の子供たちに残すものが貧しいものになりそうな気がした。」「サツキマスを見れてよかった。また見たいです。」「身近にある生命の営みに感動しました。」「講師の方の説明が充実していてとても勉強になった。」「長く研究されてきた先生のお言葉には重みがあります。」「小さな里の川でも大きな命の営みがある。それをみんなでノゾキ見してみた。」「自然の営みのすばらしさに感動しました。」



現地での観察。白く見えるのは、サ
ツキマスの雌が掘った跡。

活動報告

キノコの観察会

開催日時：2006年10月28日（土）9:00

講師：山手万知子

秋晴れの空の下、自然館前でのレクチャーから始まりました。先生は、今年は秋の気温が高かったことで、キノコは不作だろうという予想を話されました。また、時期的には地上性のキノコは少なく、倒木や枯れ木から生える樹上性のものが多いだろう、というお話でした。

昨年と同様、千町原に車を停めて、苅尾へと登って行きました。たしかにキノコが少ないような気がしましたが、見つける方は上手に見つけるもので、下りるときには籠いっぱいキノコを集めておられました。キノコが取れなくても、アカマツの大木や、ミズナラの黄葉、真っ赤になったウリハダカエデなど、回復してきた森林を十分に堪能することができました。

お昼前には高原の自然館に再集合して、同定をはじめました。それぞれが採ってきたキノコを並べ、山手先生が次々に名前を付けてゆきました。おいしそうだと思って採ったものが毒きのこだったり、同じ種類でも姿に変異があったりで、参加者からは驚きと関心の声が上がっていました。

同定を終えると、いよいよオタノシミのきのこ汁です。今回はかりお茶屋さん汁を作っていただきました。大きな椀にたっぷりの汁は、いろいろなきのこの味が出ていて、たいへん好評のようでした。中には2回もおかわりした人もおられたようです。

キノコは中毒するものもあり、少しコワイところがありますが、知識を持って採取すれば素晴らしい味に出会えます。先生の言葉を引用すると「一度にたくさん覚えようとせず、一年に2つか3つ、食べられるものを覚えてください。そうすれば10年後には20から30を食べられるようになりますよ。」と

いうことでした。キノコとつき合うには、気長にゆつくりと、ということでしょうか。

日程の連絡で、当初と現地で集合時刻を違えて言ってしまったようです。お待たせした皆様に、事務局しらかわからお詫び申し上げます。[し]



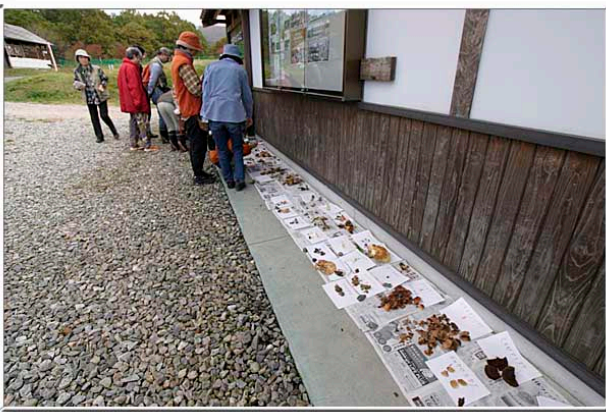
自然館の前で山手先生に説明を受ける。



苅尾の、ミズナラやブナの若齢林に登った。



高原の自然館前で採ったキノコを並べて鑑定の開始。



今年は少なかったというが、それでも様々な種類が集まった。同定が終わったキノコは、展示された。



汁を食べながら、キノコ談義に花が咲いた。

みなさんの印象に残った物

「秋空のもと、皆さんと楽しく山頂目指して登ったことです。」「山をおりたあとのきのこ汁が大変おいしかったです。(7)」「私が採ったキノコの中に猛毒キノコがあったこと。」「チャナメツムタケ。」「今日採ったキノコを味わえたこと。」「粘菌があったこと。」「ピンクの毒きのこ！ときのこ汁の美味しさです。」「ブナハリタケを初めて採ったこと。」「今まで何というきのこか分からなかったチャナメツムタケがわかった。」「きのこ汁がおいしかった。たっぷり食べました。」「きのこの種類の多さ。昨年に続きおどろきです。とっても楽しかった。また来年もよろしく願います。」「食べられるきのこ新発見、うれし～！古木がたくさんあって感動しました。」「昨年と同じ所でも、ちがって楽しかった。」「クリタケの頭がくりくりしてたのがかわいらしかったです。あと、唯一自分でとれた"食"のきのこ。」

参加したみなさんの感想（抜粋）

「昼食の試食会。自分たちの採った茸を入れての汁は最高でした。」「天気にも恵まれ皆様と楽しく山を歩くことができ大変よかったです。」「小雨のせいかな、全体にキノコは少ないようでしたが、それでも色々な種類があり、興味深い経験でした。」「やはり、食べられるものとなると燃えますね。」「余り種類は採れなかったけど、クリタケが採れて良かったです。人数もまとまりのいい数で動きやすかったです。」「キノコには少し遅かったのでは？」「みんなで採ったものを一緒に食べるのは楽しいですね。」「適度な汗をかき、気持ちよかったです。」「今まであったことのない人と出会え、また二度・三度と会って同一の趣味を味わいたい。」「食後の汁の美味しかったこと... 来年も。」「毎年とても楽しみです。きのこ仲間も出来、続けてくださいね。」「ぐるぐるとキノコを探していると、なんだか欲張りな人になった気分がしました。楽しかったです。」

観 察 会 案 内

冬鳥の観察

開催日時：2006年11月11日（土）8:30
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：歩きやすい服装、防寒着、双眼鏡、フィールドスコープなど。
定員数：30名
参加費：300円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）

野山に彩りが無くなるころ、八幡高原には様々な冬鳥がやってきます。ヤドリギやサンショウなどの木の実や、ヨモギなどの草の種をついばむ小鳥を観察します。冷え込むこともありますので、寒さ対策をしっかりとってきてください。続けて、越冬する樹木の観察会を行います。合わせてご参加ください。



2006年

11月11日 冬鳥の観察

11月19日 千町原の草刈り

2007年

1月21日 アニマルトラッキング

2月18日 スノートレッキング

3月11日 苜尾トレッキング

セイタカアワダチソウの花が咲き、コナラの葉が色づく、シーズンの終わりを感じます。そしてもう一つ、自然館のシーズン締めくくりとも言える大きなイベント「千町原の草刈り」があります。この活動は、地域の方達やボランティアのみなさんと一緒に行う活動ですが、自然館スタッフにとって最も大人数の行事になります。全員でキアイを入れてガンバリマスので、よろしくお願ひします。

千町原の草刈り

開催日時：2006年11月19日（日）8:30
集合場所：高原の自然館
準備：ごはん、作業の出来る服装、軍手、（あれば）草刈り機・チェーンソー・レーキなど。
草刈り機の燃料、昼食は、こちらで準備します。
定員数：100名
参加費：500円

失われつつある千町原の生態系と景観を取り戻すため、2年前から始まった草刈り作業を行います。千町原の草原は、渡り鳥の中継地や草原の草花の生育のためにはなくてはならない場所です。この草原を維持してきたのは、牛馬の餌や堆肥のために営々と続けられてきた草刈りでした。農業の形態が変わった今、草原を維持するためには新しいしくみを作らなければなりません。地元の方と協同で行うこの活動に、ぜひご参加ください。

当日は、昨年の作業で発生した、草やチップを使った堆肥で作った野菜を味見していただきます。お汁を用意しますので、ごはんを持参してください。



記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしております）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/> staff@shizenkan.info

冬季連絡先：0826-35-0070（芸北文化ホール）